

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 102号

2014/07/22 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：アジアと北米のカカオ豆圧砕高統計を待ち、週を通して小動き

① 最高：9月 LDN 市場£1,930 /9月 NY 市場\$3,106 (7/15) 先週比 **LDN+£1/NY-\$10**
② 最低：9月 LDN 市場£1,912 /9月 NY 市場\$3,062 (7/16) 先週比 **LDN±£0/NY-\$19**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£18 (傾向↑) / NY 市場\$44 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 277,947 枚(7/11 終了時)⇒270,225 枚 (7/17 終了時) **-7722 枚**
NY市場 213,235 枚(7/11 終了時) ⇒211,008 枚 (7/17 終了時) **-2227 枚**

【7月14日(月)】両市場とも反落＝マレーシア圧砕高統計受け
ニューヨーク市場は反落し、9月きりは7ドル(0.2%)安の3083ドルで終了した。マレーシアのカカオ豆圧砕高の減少が相場を圧迫した。

ロンドン市場も反落。9月きりは3ポンド(0.2%)安の1922ポンドで引けた。マレーシアのココア委員会によると、2014年第2四半期のカカオ豆圧砕高は前年同月比9.9%減の6万5046トンとなった。市場では、17日に予定される第2四半期の北米の同圧砕高に関心が寄せられている。

【7月15日(火)】両市場とも反発＝北米のカカオ豆圧砕高待ち
17日に予定されている第2四半期の北米のカカオ豆圧砕高の発表待ちとなる中、両市場とも反発した。同圧砕高は前年同期比で横ばい～3%増になると予想されている。ニューヨーク市場の9月きりは23ドル(0.8%)高の**3106ドル**で終了。ロンドン市場の9月きりは8ポンド(0.4%)高の**1930ポンド**で引けた。

【7月16日(水)】両市場とも反落＝ハーシー社の価格引き上げで
ニューヨーク市場のココア先物は急反落。テクニカルな売りに加え、菓子大手の米ハーシー社の価格引き上げにより、チョコレート需要が後退するとの観測が浮上した。

9月きりは、トレンドラインの3087ドルを割り込んだことで、商いを伴って急落した。

ハーシー社は、前日引け後、チョコレート価格を約8%引き上げると発表。価格引き上げは約3年ぶり。

9月きりの終値は、44ドル（1.4%）安の3062ドル。下げ幅は、5月1日以来の大きさとなった。ロンドン市場の9月きりも反落し、18ポンド（0.9%）安の1912ポンドで引けた。

【7月17日（木）】両市場とも反発＝北米の圧砕高待ち

ニューヨーク市場のココア先物は小反発。9月きりは2ドル（0.07%）高の3064ドルで終了した。

ディーラーらは、米東部時間午後4時に公表される第2四半期の北米のカカオ豆圧砕高待ちの状態。欧州の0.7%減よりは良好だと予想されている。ロンドン市場も反発し、12月きりは2ポンド（0.1%）高の1891ポンドで引けた。

【7月18日（金）】両市場とも続伸＝アジア、北米の圧砕高受け

ココア先物は両市場とも続伸した。第2四半期のアジアおよび北米のカカオ豆圧砕高が前年同期比で増加したことに支援されたものの、上値は重かった。

ニューヨーク市場の9月きりは18ドル（0.6%）高の3082ドルで終了。

ロンドン市場の12月きりは15ポンド（0.8%）高の1906ポンドで引けた。第2四半期のアジアのカカオ豆圧砕高は前年同期比5.2%増の16万1805トンだった。一方、北米の圧砕高は同4.52%増の13万1737トン。

2、カメルーン：カカオ豆の輸出量、6月終わりまでに15万2941トンに達した(7/18)

カメルーンの国立カカオ・コーヒー委員会(NCCB)によると、2013/14期の始まりから6月終わりまでで、同国のカカオ豆輸出量が15万2941トンに達したという。昨年の同時期は20万3220トンであり約5万トン(25%)の減少となった。

6月単体では4256トンのカカオ豆が港から輸出され、昨年6月の2305トンまた、先月5月の2268トンと比較すると出荷量は多いがシーズン開始以来の累計では約25%の減少となっている。

NCCBによると、カメルーンには6月現在で11社の輸出業者がおり（5月が13社）、最も取扱量の多いProducam社（1003トン）、次いでOlam社(983トン)、Telcar社(853トン)となる。

カメルーンのカカオ豆の収穫期は8月1日から翌年の7月31日までとなり、10月～2月のメインクroppと4、5月～6、7月のライトクroppに分かれる。

NCCBによると、カメルーンの本メインクroppの収穫量は2012/13期は22万8948トンであったが2013/14期には23万5000トンに伸びると予測している。

3、アジア：チョコレート需要が低下する中、バターやパウダー価格に動きなし(7/17)

チョコレート需要が季節的に落ち着く中、アジアのココアバターレシオは今週もほとんど動きが無かった。バターレシオは2.43~2.5のレンジで推移。

シンガポールのディーラーは「マーケットが非常に静かで落ち着いている。大口取引者が買いに動いたり、市場取引に参加していない模様。」と述べた。また「カカオ豆の先物価格が高く、需要が下がっている。」と加えた。パウダー価格は\$1500~\$1600で取引されており、バターと同様で先週と変わらない。

また他のトレーダーは「今までずっとカカオ豆の先物価格が低く評価されていた。その為に農家は適正な利益を享受できていなかった。ここ最近の先物価格の高騰で逆に市場はバランスを取り戻し、今まで儲けが少なかった農家が、よりたくさんの利益をとれるようになった。」と述べた。ちなみに水曜日のロンドン先物価格の9月きりは1912ポンドとなった。

多くのディーラーはマレーシア・ココア委員会とアジア・カカオ協会(CAA)から発表される第2四半期の圧砕高統計を待っている。

一方、インドネシアのカカオ豆の生産量は14.7%上昇した。インドネシア・ココア委員会(Askindo)は「エルニーニョ現象による影響は今のところ、カカオ豆には問題となっていない。」と述べた。関係者によると、今年エルニーニョ現象が起こる年とされている。しかしインドネシアではいまだエルニーニョ現象が発生していない。このため、長い乾季も見られず空気の状況がよいということだ。この好条件により、カカオの木では果実をつけ始め、収穫量が多くなると期待できる。

4、ナイジェリア：争点となっているカカオ豆輸出への課徴金により出港に遅れ(7/17)

ナイジェリア国内のカカオ豆生産第2位のクロスリバー州において、同州の港からカカオ豆を出荷する場合、州政府に課徴金を支払わなければならないとされている。しかしこの課徴金に対する合意が正式になされていないという問題で、クロスリバー州からのカカオ豆の出荷がこの1週間止まっている。

ナイジェリア・ココア協会のスポークスマンであるUkwu氏は「今週出荷される予定だった500トンのカカオ豆が、州政府に拒否され、港で出荷が止められている。」と述べた。

クロスリバー州の政府は、州内のCalabar港以外の港から出荷されるカカオ豆に対し、トンあたり\$30.90の課徴金を課しており、このことによりナイジェリアからのカカオ豆輸出が縮小している。

カカオ豆を含む輸出税は通常、国政府によって徴収される。Ukwu氏は「課徴金制度は2011年に施行された。しかし我々はこの制度に異議を唱えるために裁判所に出向いた。その結果州政府がこうした課徴金徴収を控えてくれるという判決を下した。」と述べた。

クロスリバー州からのカカオ豆は通常、欧州向けに輸出される。ナイジェリアのカカオ豆の主産地であるオンド州とクロスリバー州に大量の雨と日射しがあり、カカオ豆の生育に役だったが、もしも日射しが不十分であった時に病気が蔓延しカカオ豆の品質にダメージを与える懸念も残る。

ナイジェリアは年間約 25 万トンのカカオ豆を生産する。クロスリバー州はナイジェリア国内で第 2 位の生産地であり年間 6 万トンのカカオ豆を生産する。農家は昨年課徴金として約 1 万 8542USD(300 万ナイジェリア Nairas)を支払った。

5、コートジ：カカオ豆の着荷量 13 日時点で 163 万 9000 トン(7/15)

輸出業者が 1 4 日明らかにした推計によると、2013/14 期(13 年 10 月～14 年 9 月)のコートジボワールの 2 港(アビジャン港、サンペドロ港)のカカオ豆着荷量は 13 日時点で約 163 万 9000 トンとなり、前年同期(135 万 6000 トン)を上回った。7 月 7 日～13 日の 2 港への着荷量は約 2 万 3000 トンで、前年同期の 1 万 4000 トンを上回った。

6、コートジ：カカオ豆主産地で雨量減少、開花条件が改善(7/15)

コートジボワールのカカオ豆主産地の大部分では、先週広い範囲で雨量が減少し、次のメインクropp期の収穫分となる花の開花条件が改善した。農家やアナリストらが 1 4 日語った。

同国では現在、ミッドクropp期(4～9 月)の収穫が進んでいる。ただ、収穫量は今月中旬から減少する見通しで、1 0 月から販売が始まる来季の収穫に関心が移りつつある。同国では過去数週間、大雨が続き、道路に被害が出たほか、カカオ豆の乾燥や出荷準備が阻害されたが、首都アビジャンの農業気象予報士の 1 人は「沿岸一帯や森林地帯では今月末まで大雨が減る」と述べた。

アナリストの報告によると、主産地の中心に位置する西部のソブレでは雨量が 1 0 ミリと、前週の 6 8 ミリから減少した。ソブレ近郊の農家サラム・コーンさんは、「雨脚は弱まり、4 日間日照があった。今週も晴れが続けば、(カカオの)木は今月末からたくさんの花を付け、メインクropp期に向けて良いスタートを切れる」と話した。

一方、南部のディボでは 1 週間、降雨がない。同地近郊の農家ジュレス・ザディさんは、「数週間にわたる大雨の後、この 3 日間は好天に恵まれ、豆の乾燥作業が始まっている。土壌の水分は十分。あとは作物の病気を回避し、開花を促すため、たくさん日が照る必要がある」と話した。国内生産量の 4 分の 1 を支える中西部のダロアでも、この 1 週間は降雨がないという。

作物の生育条件が良好なのは、西部のガグノアとドゥエクエ、東部のアベンゲル、南部のアグボビルとティアサレ。大水に見舞われた沿岸部のサンペドロとササンドラでは、農家が農園を訪れるのが困難な状況だが、降雨はない。サンペドロ近郊の農家は、「水は引いている。週末にかけて天候が回復し、農園に戻れることを願っている」と話した。

* 特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp